

【入善町】 校務D X計画

文部科学省「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育D Xを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. 校務系・学習系ネットワークの統合

教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするために、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備に向けた調査研究を着実に進める。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミス（町役場に備え付けのサーバー）で運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理等、様々な校務で利用している。

グループウェア・保護者連絡・備品管理等の汎用クラウドツールと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

3. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記2と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、文部科学省C B Tシステム（MEXCBT）等の教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データ等、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフ等で可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成A Iの活用に向けた検討を行う。

なお、現状においては、教職員のI C T活用能力に個人差があることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、教職員一人一人のI C T活用能力に応じた個別指導や

I C T活用研修の実施回数を増やすなどの対応についても、学校や学校 I C T支援員等と連携を図りながら、合わせて検討する。

4. F A X ・押印の原則廃止

令和 5 年 1 2 月に文部科学省が公表した「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部で未だ保護者・外部とのやりとりで押印・署名を必要とする書類があり、クラウド環境を活用した校務D Xを阻害していることが考えられることから、災害や教育ネットワークの不具合時等、F A Xの方が電子メール等より効率的な場合を除き、F A X ・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。